

「Nike Cup World Finals - Part 1」

サッカーを愛する皆様こんにちは。日本は猛暑が続いていると聴きます、いかがお過ごしでしょうか？NZはいまだに冬ですが、一番寒い時期をすぎたところです。

行って来ました、マンチェスター！もちろん、ナイキカップの世界大会です。あまりにもたくさんの素晴らしい経験をしてきたので、何を話したらいいのかさえ迷います。一言で今回のイングランドでの2週間を振り返るなら、まさに“夢の中での出来事”のようだったといえます。

その夢から現実に戻ってきておおよそ2週間がたちますが、使い果たしたエネルギーがいまだに足りない状態です。思えば、今年2月にオークランドでの最初の地域予選が始まったときから、私自身ほぼ休みがなく、また精神的にも高いテンションですごしてきたので、6ヶ月がすぎずすべてが終わった今、体力的、精神的な疲れが正直なかなか抜けません。大げさですが、これはもしかすると軽い“バーンアウト”??と自分でも少し思っています。

しかしながら、ここ Wynrs は相変わらずの忙しさと、イングランドから帰ってきたその日から休みなくコーチとして毎日練習場に向かっています。特に、下の年代の子供たちは今回の Nike Cup を憧れとしてみているので、土産話を聞かせてあげると皆目を輝かせて聞いてくれます。そういうのを見ると、コーチとしてのモチベーションやエネルギーがまた沸いてきます。

ナイキカップはマンチェスターで行われたのですが、私たちは大会前にロンドンで一週間の合宿をすることが出来ました。イングランドに行きながら、サッカーの聖地ロンドンに行かないのはサッカーに携わっているものにとって、おすし屋さんに行っておすしを食べないのと同じです！ということで、無理をお願いしてロンドンで合宿が出来ることになったのです。



合宿地は、ロンドンの郊外 Reading(レーディング)市にある施設を借りることが出来たのですが、写真を見てもらえると分かると思いますが、これがホントに素晴らしい施設で、とてもいい合宿をすることが出来ました。

ここの施設をベースに、練習試合を3試合、それもプレミアリーグのチームと試合をすることが出来ました。初戦のフルハムとチャールトン、相手がU14だったので、楽に勝てたのですが、レー

ディングはナイキカップのイングランド予選で準決勝まで進んだチームだったので、私たちにとって本番前に絶好の相手でした。

【ロンドンでの練習試合結果】

VS U14 フルハム 5 - 0

VS U15 レーディング 1 - 1

VS U14 チャールトン 3 - 1



練習も含めて、大会に向けてとてもよい準備が出来たことは本当に良かったのですが、それだけでなくタイミングよく週末にアーセナルの新しい本拠地エミレーツスタジアムで、毎年プレシーズンに行われているエミレーツカップのチケットを取ることが出来たので、みんなで見に行きました。対戦カードは、アーセナル対パリ・サンジェルマン、バレンシア対インテルというチャンピオンチームさながらのカード。しかも、一日に2試合続けて行われるため、2試合とも見る事が出来ました。うわさには聞いていましたが、素晴らしいスタジアムでした。近代的でシートひとつひとつが映画館並みの広さと快適さにはびっくりしました。サッカースタジアムのクオリティーとしては、世界でもトップ3には間違いなく入ると思います。

そんなロンドンでの1週間を過ごしてみて思ったのですが、イングランドは今まさに一番ホットな国だと肌で感じました。昨年のチャンピオンズリーグを見ても分かる通り、準決勝にプレミアリーグから3チームも残っていましたが、今世界のトッププレイヤーや監督たちは皆プレミアリーグに集まっています。これはお金があるからなのですが、むこうで話を聞いてびっくり！プレミアリーグの予算を他の国と比較してみるとほぼ一桁違います。下位リーグのチームがプレミアリーグに昇格しただけで、年間100億円の予算がリーグから保証されるそうです。Jリーグのお金持ち浦和レッズでさえ年間予算は100億円には届かないと思います。それだけの予算があれば、いい選手や監督を呼ぶことが出来ますよね。

これだけ近年イングランドのサッカーが盛り上がってきていても、彼らには大きな悩みの種があります。それは代表チームです。1966年にワールドカップを優勝して以来、ことごとく国民の期待を裏切ってきています。つい先日も新しく改装されたサッカーの聖地、ウェンブリースタジアムでのニューオープニング記念試合でドイツに1 - 2の惨敗。しかもドイツは主力選手のほとんどが出場し

なかったにもかかわらず・・・現在行われてる来年行われるヨーロッパ選手権の予選でも苦戦が続いています。セリエAが墜落の一途をたどっている中で、代表がワールドカップに優勝したイタリアとは正反対ですね。華やかなリーグの影で、代表のていたらくにサッカー協会も頭が痛いといったところでしょうか。

そんなこんなで、ロンドンですばらしい1週間を過ごした私たちはいよいよマンチェスターに行くのですが、この続きは次回こうご期待！